

教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 2 月 22 日

所 属： 獣医 学部 基礎教育系

氏 名：紙透 伸治 職位： 准教授

役 職：基礎教育系 副主任

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

（教育活動について何をやっているのか：役職担当・主要担当科目リスト（必修，選択）（受講者数）（学部向け，大学院向け）（學理データ活用）

教師として何に責任を負っているかを明確にし，自分が担当している授業科目に関して数行で説明する。（分量の目安：2～5行（80字～200字）（科目表以外））

※分量（字数）はあくまで目安ですので，超えても構いません。内容を優先して下さい。（以下同じ）

化学及び有機化学は、両学科の生化学、生理学、薬理学、食品科学など様々な専門科目の基礎となる科目である。また、卒業研究では化学を基礎とする手法を数多く用いる。従って両学科の初年次に化学の基礎を身に付けさせることが責務と考えている。

卒業研究では、研究を通じて問題解決能力、コミュニケーション能力、表現力、論理的思考を養い、社会に貢献できる人材を輩出することが責務と考えている。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
化学	獣医学科	必	1	159
化学	動物応用科学科	必	1	184
化学入門	獣医学科、動物応用科学科	自、選	1	136
有機化学	獣医学科	選	1	158
有機化学	動物応用科学科	必	1	180
化学実験	獣医学科	選	1	28
化学実験	動物応用科学科	必	1	172
卒業論文	獣医学科	必	6	1
卒業論文	動物応用科学科	必	4	2

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

1. で説明した教育面での責任を基にしながら自分の教育理念に基づいて自分の教育アプローチについてまとめる。（自分の教育アプローチの説明：なぜやっているのか，自らの信念，価値，目指すもの）（分量の目安：8～12行（320字～480字））

育成したい学生像は以下の2つである。

(1) 大学で学んだ知識を実際に社会で生かすことができる。

化学は様々な学問と結びついており、実際の社会でも活用できる科目である。高校時代から学習している化学が実際どのように応用することができるかという点を最も伝えたいと考えている。これにより、大学で学ぶ基礎的な知識から専門的な知識までを実社会で生かせる人材を輩出したいと考えている。

(2) 周囲と協力しながら目標を達成できる。

卒業研究や実習科目を通じてコミュニケーション能力の向上を特に重視している。卒業研究では、他研究室の教員との交流や、研究室内の学生同士のコミュニケーションを介して、論文発表や学会発表を達成することを目標としている。このようなプロセスを経験することで、実社会で周囲を巻き込みながら目標を達成できる人材を輩出したいと考えている。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方、方法）

教育の目的と目標（これまでの教育経験においていつも行っていること。重要視していること。自分の教育を特徴づける方法）（分量の目安：15～24行（600字～960字））

獣医学部には化学が苦手な学生が多く存在するが、担当する化学・有機化学の講義では苦手意識を軽減できるようにわかりやすさを重視している。また、化学が将来受講する専門科目や研究、更には実社会でどのように関わりがあるかも含めて教えるよう心掛けている。例えば、コロナウイルスの感染症拡大が問題となったが、感染症の発症やその治療方法には分子レベルでは化学反応が深く関わっている。このような関わりをわかりやすく説明するようしており、化学を初年次に学ぶ意義を伝えている。

実習としては化学実験を担当しているが、上記のことに加えて、教員と学生が互いに議論できる場や、学生同士のグループディスカッションの場を作るように心がけている。また、卒業研究では、卒研生とも積極的コミュニケーションを図っており、週に1回はミーティングを行っている。学生の意見には耳を傾けアイデアは積極的に活用するようにしている。教員とのディスカッションを通じて、コミュニケーション能力と論理的思考を育むことを心掛けている。

卒研生および大学院生は、学会や有志の研究交流会などに参加する機会をつくり、出来るだけ自分の研究についてプレゼンテーションする機会を作るようにしている。プレゼンテーションをする際の心構えや、スライドの作り方や話し方は細かく指導するようにしている。プレゼンテーションをすることで表現力や自らをアピールする力を養っている。

アクティブラーニングについての取組

化学実験の講義では、実験班ごとに予習課題や実験結果について教員とディスカッションする機会をつくっている。

ICT の教育への活用

化学実験は全てタブレットを活用して実施している。予習課題は學理を活用し、実験結果はタブレットで記録するという方式にした。実験結果は Word や Excel でレポートとしてまとめ、PDF ファイルで提出する形式としている。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）（分量の目安：15～24 行（600 字～960 字））

現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

（①から⑤まで個別に記載又は①から⑤までまとめて記載ください）

①教育（授業，実習）の創意工夫（A～C）

（B）學理/AzaMoodle のテスト機能を活用した習熟度のチェックとフィードバック、復習用講義動画の活用などを行っている。

②学生の理解度の把握（A～C）

（B）學理/AzaMoodle のテスト機能を活用して確認テスト、小テストを実施することで理解度を把握した。

③学生の自学自習を促すための工夫（A～C）

（B）講義についていけない学生には教育推進センターを活用するように促した。

④学生とのコミュニケーション（質問への対応等）（A～C）

（B）Gmail による質問には迅速に対応した。直接質問された際は、再度質問してもらえるよう丁寧に説明するよう心掛けた。

⑤双方向授業への工夫（A～C）

（B）上記のように質問に対する受け答えはあったが、不十分な部分もあったと考えられる。

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。（V 学科， M 学科の教員の方のみ記載してください。）

5. 学生授業評価 (分量の目安：4～7行 (160字～280字))

① 授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

講義内の問題や小テストの問題の解説に時間をかけ丁寧に説明するように心掛けた。

② ①の結果はどうでしたか。

現在のところ具体的な成果は感じられてはいない。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組めますか。

この方法を今後も続けていく予定である。

6. 学生の学修成果 (分量の目安：4～7行 (160字～280字))

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

(参考となる取組については、学内で共有させていただく予定です。)

授業評価アンケートで、基礎的な問題だけでなく発展・応用問題も扱ってほしいという要望があった。学力が高い学生向けに、講義内やテストで難易度が高い問題を扱っていきたいと考えている。

② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

講義・実習に関しては特にないが、研究室生に関しては、学生が手がけた研究の論文が学術雑誌に受理された。

7. 指導力向上のための取組 (FD 研究会参加状況) (分量の目安：1～2行 (40字～80字))

FD 研究会には全て参加しており、これまでFD 研修で学んだことを積極的に取り入れている。

8. 今後の目標 (理念の実現に向かう今後のマイルストーン)

教育活動に関する今後の目標を記載してください。短期的な目標と長期的な目標を分けて記載してもかまいません。(分量の目安：3～6行 (120字～240字))

理念の(1)の実現には、担当する講義や研究の意義をわかりやすく伝える能力、面白さを伝える能力を自らが示す必要がある。このため、講義で学生から高い評価をうけることが重要と考えており、毎年の授業評価を少しでも上げることを短期的目標とする。これによって長期的には担当科目が魅力的かどうかという問いについて100%肯定的な評価となることを目指す。(2)の実現では、短期的には個々の学生が論文発表や学会発表をすることを目標とし、長期的には研究室の学生全員が複数回学会発表するような研究室を目指す。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

※資料については非公開扱いのものもありますので、資料名のみを記載してください。

- ・授業科目シラバス
- ・授業評価アンケート